

科目名		化粧品化学				年度	2025
英語表記		Cosmetic chemistry				学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	イントロダクション	化粧品の製造にあたり大まかな特徴について知る。	1	医薬品医療機器等法（薬機法）	化粧品と医薬部外品について説明できる。 パッケージ表示と成分表示のルール、ネガティブリスト・ポジティブリストについて説明できる。	1	
2			2	化粧品の構造	ベース成分（水・油・界面活性剤）について知る。	1	
3	ベース成分①	化粧品成分のうち水性成分と油性成分の特徴について学ぶ。	1	水性成分	水性成分について説明できる。	1	
4			2	油性成分	油性成分（高級脂肪酸、油脂、けん化、セッケン）について説明できる。	1	
5	ベース成分②	化粧品成分のうち界面活性剤の機能と構造について学ぶ。	1	界面活性剤の機能	界面活性剤の役割について説明できる。	1	
6			2	界面活性剤の構造	4種の界面活性剤の構造とそれぞれの化粧品での特徴について説明できる。	1	
7	乳化とコロイドの化学①	乳化について学ぶ。	1	エマルションの種類	O/W型、W/O型エマルションについて説明できる。	1	
8			2	HLB値	HLB値について知り、O/W型、W/O型エマルションの作り分けについて説明できる。	1	
9	乳化とコロイドの化学②	相図を用いた化粧品処方の考え方について学ぶ。	1	相図、状態図	相図、状態図を用いた乳化手順の意味について説明できる。	1	
10			2	処方の考え方	処方の考え方について説明できる。	1	
11	その他の成分	ベース成分以外の成分について学ぶ。	1	機能性成分	機能性成分（美白・抗しわ・アンチエイジング・肌質改善・紫外線防止）について説明できる。	1	
12			2	安定化成分	安定化成分や色素・香料・温感・冷感成分について説明できる。	1	
13	全表示成分の解析	化粧品成分検定試験に出題される全表示成分の解析を行う。	1	全表示成分解析①	化粧水、乳液・クリームの全表示成分解析を行うことができる。	1	
14			2	全表示成分解析②	日焼け止め、シャンプー、リンス・コンディショナーの全表示成分解析を行うことができる。	1	
15	まとめ	第1回から14回までの内容を総復習する。	1	第1回から14回までの内容を総復習する。	第1回から14回までの内容を理解している。	1	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等